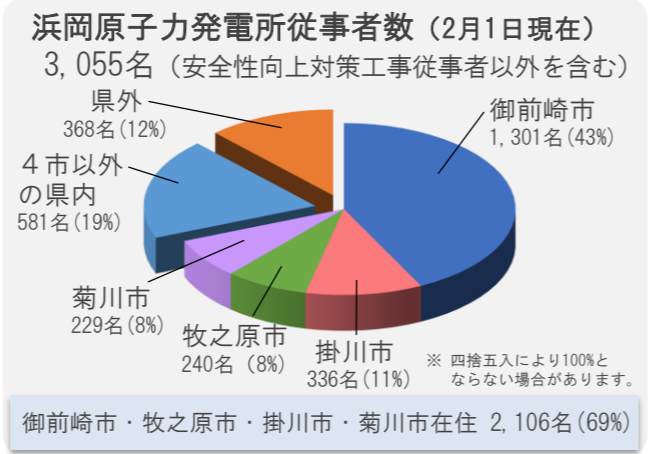




中部電力

今月号のお知らせ内容

- ・ 静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認（第99回）
- ・ 静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認（第100回）



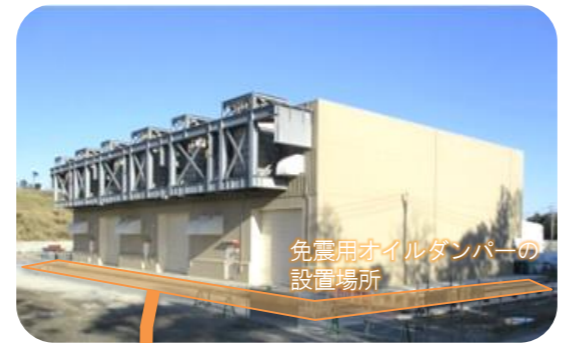
静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認（第99回）

第99回（1月27日）点検および確認内容

点検項目：緊急時ガスタービン発電機建屋の
免震用オイルダンパー

緊急時ガスタービン発電機とは
外部からの電源および非常用ディーゼル発電機が使用できない状況でも、原子炉を冷却するための設備に電力を供給するための発電機です。

免震用オイルダンパーとは
緊急時ガスタービン発電機建屋の地下に設置している免震装置（地震の揺れを吸収する装置）の1部です。
当初設置していた免震用オイルダンパーが当社管理基準を満足していないことを確認したため、2020年8月～10月に全数32本を新規製造品に取り替えました。



緊急時ガスタービン発電機建屋



免震用オイルダンパー取替工事の様子



免震用オイルダンパーの現場確認状況

静岡県からの講評

本日の点検で、中部電力の計画どおりに実施されていることを確認した。安全対策工事は重要な工事であるため、今後も着実に実施していただきたい。

御前崎市からの講評

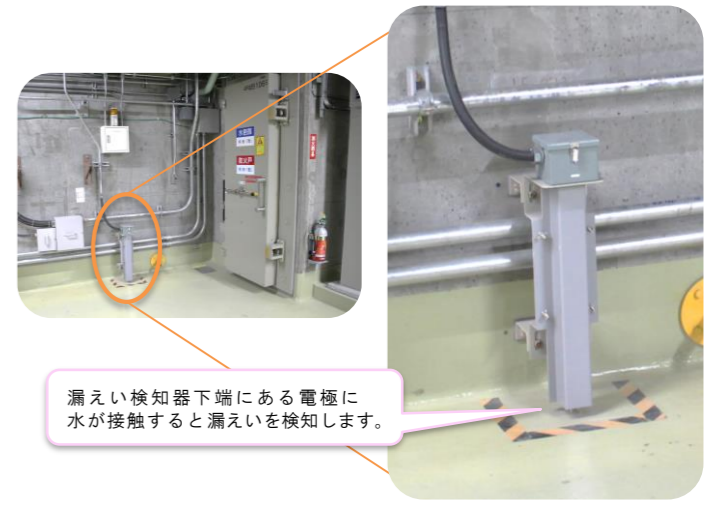
本日の点検で、設備の配備が計画どおりになされていることを確認した。今後も市民の安心・安全のため適切な設備の配備をお願いする。

静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認（第100回）

第100回（2月19日）点検および確認内容

点検項目：漏えい検知器の追加設置

漏えい検知器とは
配管などから床面に漏れた水を検知する装置です。検知した際には中央制御室に警報が出ます。
『漏えい検知器』で早期に漏えいを把握し、その漏えいを止めるなどの対応を速やかに取ることで、原子炉を冷却するために必要な設備が漏えい水に浸かり故障してしまうことを防ぎます。



漏えい検知器下端にある電極に水が接触すると漏えいを検知します。

漏えい検知器



漏えい検知器の現場確認状況

静岡県からの講評

漏えい検知器について、現場確認および書類確認をおこなった。本日の点検で、漏えい検知器が現場で確実に設置されていることを確認した。
漏えい検知器等の運用に習熟するようお願いする。

御前崎市からの講評

本日の点検で、漏えい検知器が計画どおり設置されていることを確認した。
今後も着実に対策工事を実施するようお願いする。

第100回点検にて御前崎市の柳澤市長からご挨拶をいただきました

「100回の現場点検を迎え、これまでの静岡県のご尽力に対し感謝を申し上げる。
平成23年の浜岡全号機停止以降、中部電力は総力をあげて安全性向上対策工事を進めてきた。今後も、中部電力一丸となって安全性の向上に取り組んで欲しい。」



柳澤市長からのご挨拶を受けて、吉田発電所長より、今後も更なる安全性の向上、リスクの低減に取り組んでいくことをお約束する旨回答しました。

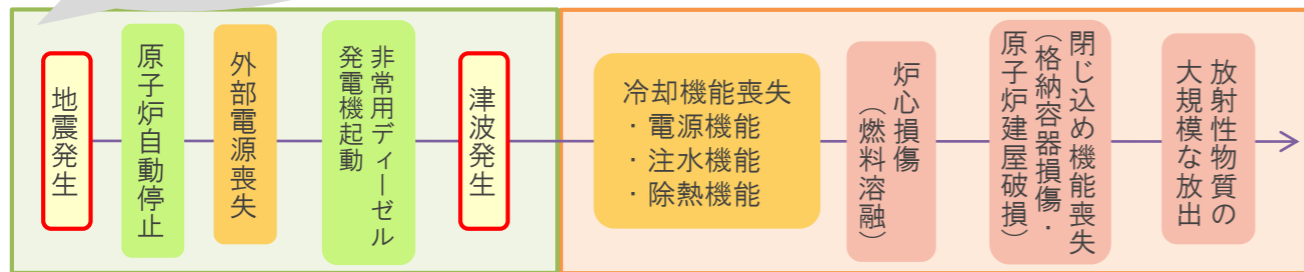
『浜岡原子力発電所の安全性向上に向けた取り組みのお知らせ』の発行を次号より、毎月発行から工事や点検の進捗状況に合わせて発行するように変更します。

発電所の安全性を更に高めるための取り組み【概要】

福島第一原子力発電所の事故の教訓から、発電所では地震や津波等の様々な事態に対処するために、設備の追加配備や現場対応力の強化をおこなっています。主な取り組みをみなさまへご紹介いたします。

①福島第一の話

福島第一原子力発電所の事故の場合は、以下のように事象が進展しました。



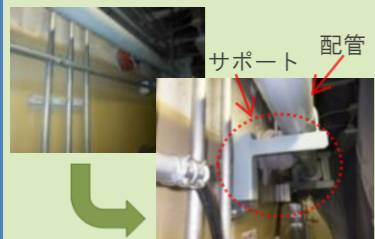
発電所では、福島事故の前から電源や注水、除熱の機能をもつ設備を多重性・多様性をもって配備していますが、事故以降、様々な追加対策を講じ、更に発電所の安全性を向上させています。

②設備の話

従来の設計基準の事故に加えてより厳しい想定の大規模事故に対処するため、様々な事態を想定し、対策を実施しています。また、対策に柔軟性を持たせるために、可搬型の設備も配備しています。

【主な設計基準事故対処設備】原子炉施設の安全を確保するための機器が、一斉に機能喪失しないようにします。

巨大地震に耐える。
原子炉建屋は岩盤に直接設置され、地震に強い構造としています。また、配管サポートの追加をはじめとした重要な設備の耐震補強を実施しています。



津波を浸入させない。
津波が発電所に来襲した場合、海抜22mの防波壁で敷地内への浸水を防ぎます。万が一、敷地内に浸水した場合でも強化扉・水密扉により建屋内の浸水を防ぎます。



自然災害に備える。
発電所敷地外で発生した火災が発電所施設に燃え移らないように防火帯を設置します。



【主な大規模事故等対処設備】

冷やす機能を確保し、重大事故に至らないようにします。また、重大事故等の発生を想定し、事故の進展を防ぐ機能を強化しています。

恒設

電源機能強化
ガスタービン発電機
高台40m地点から電気を供給

注水機能強化
緊急時淡水貯槽
高台30m地点から原子炉を冷やす水を供給(7日間分)

除熱機能強化
緊急時海水取水設備
既設の海水取水ポンプが故障した場合に備え同様な設備を設置

可搬

交流電源車
恒設の交流電源設備が故障した場合に備え配備

可搬型注水ポンプ車

可搬型取水ポンプ車
恒設の注水設備が故障した場合に備え配備

重大事故の発生に備える

フィルタバント設備
格納容器の破損を防止するため、気体を外部へ放出する際は、放射性物質を吸着するフィルタを通し、セシウムなどの放出量を1000分の1に抑えることで避難の長期化を防止します。

放水砲設備
原子炉建屋の水素爆発を防止するため、建屋から水素を排出した際に放水砲により放射性物質を地上に落とし放射性物質の拡散を抑えます。

重大事故等に柔軟に対応するため、可搬型車両やその保管場所を確保し分散配置します。対応現場へ出動できるよう、複数のアクセスルートの確保に取り組んでいます。

③現場対応力の話

配備した設備が期待通りの機能を発揮するためには、扱う「人」の「現場対応力」が必要だと考え、強化しています。

【初動対応の強化】

緊急時即応班を設置し、運用開始に向けて増強しています。

24時間
365日体制
緊急時に特化した
幅広い対応力



役割
・戦略検討 (現在18名)
・アクセスルート確保
・可搬設備の操作等
現場対応

【手順の整備・資格の取得】

設備導入に伴い、必要な手順の追加や免許等の資格の取得をおこなっています。



〈取得免許例〉
・大型自動車免許
・けん引免許
・移動式クレーン免許 など

【訓練の充実】

目的に応じて様々な事故・事象への対応を網羅的に確認・強化し、緊急時に対応する組織の能力を総合的に向上させます。

総合訓練



主に現場や発電所外との連携、対応手順の確認を目的に実施しています。

図上演習



判断能力の向上を目的とした訓練を2015年度から実施しています。

個別訓練

新たに設置した設備の手順を確認するとともに、可搬設備の操作等に必要力量の向上に努めています。(年600回程度)



シミュレータ訓練



電源車操作訓練



可搬型モニタリングポスト設置訓練

今後も、安全最優先で、浜岡原子力発電所の運営に努めてまいります。また、地域の皆さまからいただいた声に丁寧にお応えし、皆さまに信頼いただける発電所を目指してまいります。